



国コード

- [国番号について \(1 ページ\)](#)
- [国番号の設定の前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [国番号の設定 \(GUI\) \(2 ページ\)](#)
- [国番号の設定方法 \(3 ページ\)](#)
- [国番号の設定例 \(5 ページ\)](#)

国番号について

コントローラおよびアクセスポイントは、法的な規制基準の異なるさまざまな国で使用できるように設計されています。アクセスポイント内の無線は、製造時に特定の規制ドメインに割り当てられています（ヨーロッパの場合はEなど）が、国コードを使用すると、規制ドメイン内で稼働する特定の国を指定できます（フランスの場合はFR、スペインの場合はESなど）。国番号を設定すると、各無線のブロードキャスト周波数帯域、インターフェイス、チャンネル、および送信電力レベルが国別の規制に準拠していることを確認できます。

日本の国番号について

国番号は、各国で合法的に使用できるチャンネルを定義します。日本で使用できる国番号は、次のとおりです。

- JP：コントローラに接続できるのは、-J 無線のみです。
- J2：コントローラに接続できるのは、-P 無線のみです。
- J3：コントローラに接続できるのは、-U、-P、および-Qの無線ですが、-Uの周波数を使用します。
- J4：コントローラに接続できるのは、2.4G JPQU および 5G PQU です。

日本の規制区域のアクセスポイントでサポートされているチャンネルと電力レベルの一覧については、『[Channels and Maximum Power Settings for Cisco Aironet Lightweight Access Points](#)』[英語]を参照してください。

国番号の設定の前提条件

- 通常、deviceごとに1つの国番号を設定します。deviceの物理的な場所とそのアクセスポイントが一致しているコードを1つ設定します。deviceごとに最大20の国番号を設定できます。これによって複数の国がサポートされ、1台のdeviceからさまざまな国にあるアクセスポイントを管理できます。
- multiple-country 機能を使用している場合、同じRFグループにjoinする予定のすべてのdeviceは、同じ国のセットを同じ順序で設定する必要があります。
- アクセスポイントは、使用可能なすべての法定周波数を使用できます。ただし、アクセスポイントは関連するドメインでサポートされる周波数に割り当てられます。
- RFグループリーダーに設定されている国リストによって、メンバーが動作するチャンネルが決定します。このリストは、RFグループメンバーに設定されている国とは無関係です。
- 日本の規制ドメインにあるdeviceの場合は、deviceにjoinされた-J規制ドメインのアクセスポイントを少なくとも1つ持っている必要があります。
- 指定した国が ap country list コマンドを使用して設定されている場合、wireless country country-code コンフィギュレーション コマンドを使用して国番号を削除することはできません。その逆も同様です。

国番号の設定 (GUI)

手順

ステップ1 [Configuration] > [Wireless] > [Access Points] > [Country] の順に選択します。 > > >

ステップ2 [Country] ページで、アクセスポイントがインストールされている各国のチェックボックスをオンにします。複数のチェックボックスをオンにした場合、RRM チャンネルと電力レベルが共通のチャンネルと電力レベルに制限されることを記載したメッセージが表示されます。

ステップ3 [Apply] をクリックします。

国番号の設定方法

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： デバイス# <code>enable</code>	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	show wireless country supported 例： デバイス# <code>show wireless country supported</code>	使用可能なすべての国番号のリストを表示します。
ステップ 3	configure terminal 例： Device# <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	ap dot11 24ghz shutdown 例： デバイス(config)# <code>ap dot11 24ghz shutdown</code>	802.11b/g ネットワークをディセーブルにします。
ステップ 5	ap dot11 5ghz shutdown 例： デバイス(config)# <code>ap dot11 5ghz shutdown</code>	802.11a ネットワークをディセーブルにします。
ステップ 6	ap dot11 6ghz shutdown 例： デバイス(config)# <code>ap dot11 6ghz shutdown</code>	802.11 6 GHz ネットワークを無効にします。
ステップ 7	ap country <i>country_code</i> 例： デバイス(config)# <code>ap country IN</code>	
ステップ 8	end 例： Device(config)# <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーション モードを終了できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	show wireless country channels 例： デバイス# show wireless country channels	deviceに設定された国番号の使用可能なチャンネルのリストを表示します。 (注) ステップ6で複数の国番号を設定した場合にのみ、ステップ9～17を実行します。
ステップ 10	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 11	no ap dot11 5ghz shutdown 例： デバイス(config)# no ap dot11 5ghz shutdown	802.11a ネットワークをイネーブルにします。
ステップ 12	no ap dot11 24ghz shutdown 例： デバイス(config)# no ap dot11 24ghz shutdown	802.11b/g ネットワークをイネーブルにします。
ステップ 13	no ap dot11 6ghz shutdown 例： デバイス(config)# no ap dot11 6ghz shutdown	802.11 6 GHz ネットワークを有効にします。
ステップ 14	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーション モードを終了できます。
ステップ 15	ap name cisco-ap shutdown 例： デバイス# ap name AP02 shutdown	アクセスポイントをディセーブルにします。 (注) 国番号を設定しているアクセスポイントのみをディセーブルにすることを確認します。
ステップ 16	ap name cisco-ap no shutdown 例： デバイス# ap name AP02 no shutdown	アクセスポイントを有効にします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。